

## 第61回 宇宙科学・探査小委員会 議事要旨

1. 日時：令和6年5月14日（火） 14：00－16：00
2. 場所：宇宙開発戦略推進事務局大会議室
3. 出席者
  - (1) 委員  
常田座長、大島委員、杉田議員、関委員、永田委員、野村議員、山崎委員
  - (2) 事務局（宇宙開発戦略推進事務局）  
風木局長、渡邊審議官、松本参事官
  - (3) 関係省庁等  
文部科学省研究開発局宇宙開発利用課 嶋崎課長  
鈴木室長  
国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所（ISAS）  
國中所長  
藤本副所長  
川崎理事補佐  
国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構国際宇宙探査センター  
山中国際探査センター長  
青柳部長

### 4. 議事要旨

- (1) 宇宙科学予算について  
令和6年度の宇宙科学予算と宇宙戦略基金の宇宙科学・探査分野について、資料1-1、1-2、1-3を用いて、文部科学省と内閣府から報告があった。

委員からは、以下のような意見があった。

（○：意見等）

#### 【宇宙科学予算について】

- 海外との共同ミッションは、海外との「同期」が重要。ISASの中で、柔軟な予算のやりくりが重要。
- フロントローディングは大切。目指すべき技術レベルや見通し・趣旨など、中身がわかるとよい。
- 「学術研究・実験等」では、プロジェクトの進展と、学生の教育とのバランスによく気を配るべきであろう。
- 特に海外との共同研究は、為替（円安）や物価高騰などの影響を受け、相対的に予算が目減りし、研究計画にも影響しうる。産官で取り組む必要がある。

#### 【宇宙戦略基金について】

- 「ファンディングエージェンシー」の立場で知見を提供する、JAXAの支援への関わり方は重要。フレキシブルに進められることが重要。

○宇宙戦略基金によって、宇宙探査の分野でも、新たな宇宙探査計画に取り組む民間企業が育つことを期待する。知財の在り方も重要。また、基金で支援したものを JAXA などのミッションにつなげていくことも重要。

(2) 宇宙科学・探査ミッションの進捗状況について

JAXA の宇宙科学研究所から、宇宙科学・探査のミッションの進捗状況について、資料 2 に基づいて、報告があった。

委員からは、以下のような意見があった。

(○：意見等)

○次期大型宇宙望遠鏡計画 Habitable Worlds Observatory に日本がどういう規模でどう参加するか、しっかりと検討が必要。

○2029 年 4 月に地球に接近する小惑星「アポフィス」は、世界的に注目され議論されている。日本の貢献を期待する。具体的な提案を。

以 上